

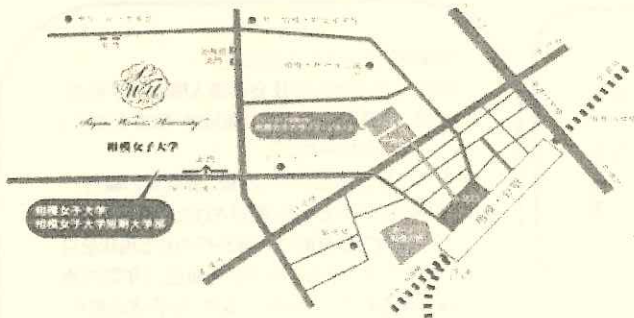
ヒューマンドキュメンタリー映画上映会

『やさしくなあと』

～奈緒ちゃんと家族の35年～



ヒューマンドキュメンタリー映画伊勢真一監督作品
2017年/カラー/1時間50分/製作いせフィルム
<https://www.isefilm.com/>



小田急線相模大野駅から相模女子大学まで徒歩10分。
相模大野駅の中央改札を出て右へ曲がり、北口正面のエスカレーターを降り伊勢丹へ続くアーケードを直進。エスカレーターを上がり伊勢丹入口前を左に直進。階段を下り通りを直進。

2018年

7月29日 (日)

①10:00～11:50 上映(開場:9:45)

終了後 伊勢真一監督トーク

②13:00～14:50 上映(開場:12:45)

14:50～16:20 トーク

伊勢監督・狩野晴子さん(相模女子大学 准教授)

場所: 相模女子大学 マーガレットホール
(4Fガーデンホール)

※マーガレットホールは正門を左に入ります。

〈当日券〉 1,500円

〈前売券〉 1,200円 (予約可)

〈障がい者、シニア、学生〉 1,000円

※学生は高校生以上、中学生以下無料

〈チケット申し込み・問い合わせ〉

090-1557-3838 (コダマ) eaad7404@nifty.com

※メールでのお申し込みは件名に「上映会」と明記し、お名前、時間、枚数、連絡先を記入してください。

※ 保育と親子席あります。申し込みは下記まで。

080-5093-2229(タキモト) viola27primula@yahoo.co.jp

共催: 『やさしくなあと』相模原上映実行委員会
いせフィルム

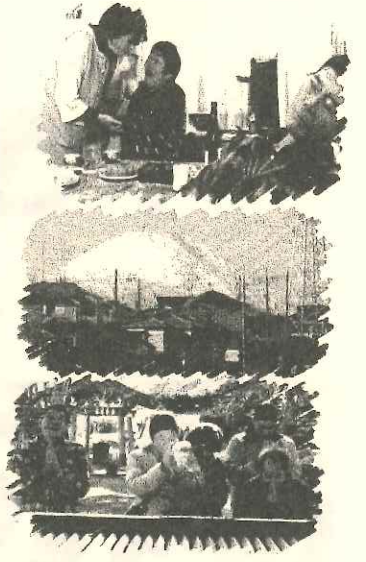
相模女子大学人間社会学科 狩野ゼミ

公益社団法人神奈川県社会福祉士会相模原支部

後援: 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会

ほっとスーパ (お母さんたちのしゃべり場)

『やさしくなあと』相模原上映会 Facebook
<https://www.facebook.com/yasashikunaani/>



やさしくなあに

— 奈緒ちゃんと家族の35年 —

『やさしくなあに』は
家族の映画です。

演出 伊勢真一

この子は長く生きられない… 医者にそう言われた、と姉が長女・奈緒ちゃんのことを私に話してくれたのは、奈緒ちゃんが2才か3才の頃だったか…。てんかんと知的な障がいを含ませもっていたのです。無力だった私は何もしてあげられませんでした。

自分に出来ることは映画を創ることだ。家族のアルバムのような記録を撮って、お母さんとお父さんと弟の記一と、奈緒ちゃん、一家四人にだけ観てもらう、そんなショートフィルムを創ってみようと思いついたのは、奈緒ちゃんが小学校に上がって間もなくのこと、8才の正月にカメラは回り始めました。

撮るべきものは“元気な奈緒ちゃん”。奈緒ちゃんがそこに居て、笑っているだけでいい。生きていてだけでいい…。ただただ奈緒ちゃんを撮るとい

素朴な記録、テーマなんか知ったことか。奈緒ちゃんに逢いに、スタッフと通い続けました。奈緒ちゃんが生まれ、奈緒ちゃんが育んだ「しあわせ」。気がついたら12年の歳月が流れ、完成した映画『奈緒ちゃん』は、思ってもいないような評価を受け、全国各地で自主上映の輪が広がって行ったのです。

しかし、“元気な奈緒ちゃんを撮る”という課題は、まだ終わりませんでした。何故なら、奈緒ちゃんとはだんだん元気になり、奈緒ちゃんを育てながらお母さんもまた、元気になっていったからです。お母さんは、障がいのある子どもをもつ仲間たちのリーダーとして、「びぐれっと」と呼ばれる地域作業所を立ち上げ、地域の中で、奈緒ちゃんたちを育てる活動に取り組みます。そして奈緒ちゃんは、やがて「びぐれっと」が作ったグループホームで暮らし始め自立します。私はその過程を映画『奈緒ちゃん』の続編として『びぐれっと』『ありがとう』という二本のドキュメンタリー映画に

まとめました。それでも撮影を止めませんでした。“元気な奈緒ちゃんを撮る”という約束を果たすために。

そして気がついたら、撮影を始めてから35年の歳月が積み重ねられていたのです。「奈緒ちゃんが生まれたから、生きたから、たくさんのいのちが生まれた。」

『やさしくなあに』は、家族の映画です。障がいをもちながらも元気に生きる奈緒ちゃんを撮りつづけて35年、そこに写っていたのは“家族”でした。ひたむきに生きる奈緒ちゃん一家の暮らしの日々…。映画を観た人はきっと、自分自身の家族との日々を思い返すでしょう。主役は姪っ子の奈緒ちゃんとその家族。テーマ曲「Home, Sweet Home」を歌うのは姉、西村信子、テラシの絵は亡き母、木島浜子、亡き父、伊勢長之助（記録映画編集者）と関わりがあるスタッフもいます。題字は伊勢真一…。この映画は、私にとっても家族の映画です。

伊勢 真一 (いせ しんいち)

ドキュメンタリー映像作家。1949年東京都生まれ。奈緒ちゃんの叔父にあたる。長編ドキュメンタリー映画のデビュー作は、8才の奈緒ちゃんとその家族に寄り添い12年 間を記録した映画『奈緒ちゃん』(1995年) この作品で、毎日映画コンクール記録映画賞グランプリ他多数を受賞。その後も長きにわたり撮影を続け「奈緒ちゃんシリーズ」として『びぐれっと』(2002年) 『あひがせう』(2006年) を製作。2017年の本作はシリーズ第4弾となる。他にもヒューマンドキュメンタリーの作品を多数製作。

トーク

相模原のやまゆり園の事件から、2年が経ちました。トークではお二人のお話を聞きながら、皆さんと一緒に考える時間になればと思います。

『やさしくなあに』相模原上映会
ブログ

<http://naochan4.jugem.jp>

狩野 晴子 (かのう はるこ)

相模女子大学人間社会学部人間心理学科准教授。静岡県出身。専門領域は「障害者福祉」「ソーシャルワーク」。大学で社会福祉を学んだ後、静岡県の職員(児童指導員)となる。配属された知的障害児入所施設で日常的に虐待が行われる現状を目の当たりにし、自らの力不足を痛感。1年間の施設勤務を経て、大学院へ進学、障害者の権利擁護、エンパワメントをテーマに研究を行う。その後、障害者の地域生活支援に従事。2006年より活動の場を大学に移し、社会福祉士養成を通して福祉現場の後方支援を行っている。